

科目名	課題研究 動物		単位数	3 単位
学科名	生命探求科	学 年	3学年	予定時数 105
1 学習目標	<p>家畜の飼育に必要な知識と技術を習得させ、家畜の特性や飼育に適した環境を理解させるとともに品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。</p>			
2 指導の重点	<p>生徒の能力、意欲、関心が多様であることから</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 家畜飼育の知識および技能の基礎・基本の充実を目指す。 ② 家畜飼育に対する意欲を高めることを目指す。 ③ 畜舎での飼育管理を通じて地域への貢献と交流を行う。 			
3 学習内容				
【1学期】	<p>1 テーマおよび計画立案</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) テーマの決定 (2) 年間計画立案 (3) 実験 			33時間
【2学期】	<p>2 課題研究レポート作成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 下書きの作成 (2) パソコンにより清書作成 			54時間
【3学期】	<p>3 報告書の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告書の作成 <p>4 発表会の準備</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 発表方法に沿った準備 <p>5 発表会</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 発表会 (2) 自己評価 (3) 相互評価 (4) 集録の作成 			18時間
教科書				
副教材				

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
実施計画書	◎	○	○	20%
レポート(報告書)	◎	◎	○	30%
研究発表	○	◎	◎	25%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重点	選択した学習領域に関する課題の解決策を探究し、その成果について発表ができたか。			

科目名	総合実習 動物		単位数	3 単位	
学科名	生命探求科	学 年	2学年	予定時数	105
1 学習目標	家畜の飼育に必要な知識と技術を習得させ、家畜の特性や飼育に適した環境を理解させるとともに品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。				
2 指導の重点	生徒の能力、意欲、関心が多様であることから ① 家畜飼育の知識および技能の基礎・基本の充実を目指す。 ② 家畜飼育に対する意欲を高めることを目指す。 ③ 畜舎での飼育管理を通じて地域への貢献と交流を行う。				
3 学習内容					
【1学期】	1 農場当番の概要 (1) 農場当番とは (2) 時間と出欠 (3) 実習日誌の記入方法 (4) 実習の服装 2 教材管理に関する総合的な実習 (1) 実験・実習用動物の飼育管理 (年間) (2) 粗飼料の播種・栽培管理・乾草上げ				
【2学期】	(3) 牛の粗飼料作り・乾草上げ (4) 稲ワラの収穫				
【3学期】	(5) 施設の除雪 3 日誌の記入 (1) 実習日誌 (レポート) の記入状況				
教科書					
副教材	畜産実習必携 (信濃教育会出版部)				

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	○	20%
実験・実習 (実技)	○	○	○	30%
レポート、ノート	○	○	○	30%
小テスト	○	○	○	10%
自己評価	○	○	○	10%
評価の重点	畜産に必要な実践力を身につけているか。 動物の飼育管理に責任を持って取り組めているか。			

科目名	畜産		単位数	3単位
学科名	生命探求科	学年	2学年	予定時数 105
1 学習目標	家畜の飼育に必要な知識と技術を習得させ、家畜の特性や飼育に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。			
2 指導の重点	<p>生徒の能力、意欲、関心が多様であることから</p> <p>① 家畜飼育の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。</p> <p>② 実際の飼育活動を通して興味を引き出し、家畜飼育に対する意欲を高めることを目指します。</p>			
3 学習内容				
【1学期】	<p>畜産の役割と動向</p> <p>(1) 家畜概論 ①人と家畜の生活 ②家畜の分類 ③家畜の品種</p> <p>(2) 家禽の飼育プロジェクト学習 ①体の仕組み ②餌 ③消化 ④飼育管理 ⑤肉加工</p>			
【2学期】	<p>2 酪農・肉牛</p> <p>(1) 一般管理（1～3学期に実施） ①飼養管理 ②保定 ③削蹄 ④去勢 ⑤除角 ⑥個体識別標 ⑦寄生虫駆除 ⑧病気予防 ⑨子牛下痢診断 ⑩投薬 ⑪外傷治療 ⑫牛舎環境整備</p>			
【3学期】	<p>4 野生動物</p> <p>(1) 有害獣による農林業被害について ①現状 ②展望 ③防除方法</p> <p>(2) 有害獣の資源としての活用方法について ①獣肉の特徴 ②革製品について ③関係法規</p>			
教科書	畜産（実教出版）			
副教材	畜産実験実習必携（信濃教育会出版部）			

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
実験・実習	○	◎	○	10%
定期考查	◎	○	○	60%
レポート	○	◎	○	15%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重点	合理的で経済性の高い畜産に高い関心と意欲を持って取り組んでいるか。			

科目名	農業機械		単位数	2単位	
学科名	生命探求科	学年	2学年	予定時数 70	
1 学習目標	基本的な農業に関わる機械と主に家畜の飼育・管理に必要な農業機械の知識と技術を習得させるとともに安全に使用できる能力と態度を育てる。				
2 指導の重点	生徒の能力、意欲、関心が多様であることから ① 安全保守の知識および技能の基礎・基本の充実を目指す。 ② 正しい操作・取扱技術に対する意欲を高めることを目指す。				
3 学習内容					
【1学期】	1 農業機械の役割 (1) 農業機械化の意義 (2) 農業機械の利用と現状 (3) 安全に作業・実習を行うために (4) 基本的な工具の使用と単位 2 農業生産と農業機械の利用 (1) 家畜管理圃場に関わる農業機械実習 (年間) トラクタ・刈払機・小型耕耘機 (2) アーク溶接の仕組み				22時間
【2学期】	(3) アーク溶接を用いた実習 (4) 乗用トラクタ実習 3 トランクタ (1) 乗用トランクタ				36時間
【3学期】	4 作業機 (1) 耕耘・整地用機械 (2) 育成・管理用機械 (3) 飼料作用収穫・調整機械 (4) 運搬用機械				12時間
教科書	農業機械 (実教出版)				
副教材					

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
ノート	○	○	○	15%
学習成果物	○	◎	○	10%
定期考查	◎	○	○	60%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重点	農業機械のしくみについて理解しようとしているか。			

科目名	総合実習 動物		単位数	3 単位	
学科名	生命探求科	学 年	3学年	予定時数	105
1 学習目標	<p>家畜の飼育に必要な知識と技術を習得させ、家畜の特性や飼育に適した環境を理解させるとともに品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。</p>				
2 指導の重点	<p>生徒の能力、意欲、関心が多様であることから</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 家畜飼育の知識および技能の基礎・基本の充実を目指す。 ② 家畜飼育に対する意欲を高めることを目指す。 ③ 畜舎での飼育管理を通じて地域への貢献と交流を行う。 				
3 学習内容					
【1学期】	<p>1 農場当番の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 農場当番とは (2) 時間と出欠 (3) 実習日誌の記入方法 (4) 実習の服装 <p>2 教材管理に関する総合的な実習</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実習用動物の飼育管理（年間） (2) 粗飼料の播種・栽培管理・乾草上げ 				
【2学期】	<p>(3) 牛の粗飼料作り・乾草上げ</p> <p>(4) 稲ワラの収穫</p>				
【3学期】	<p>(5) 施設の除雪</p> <p>3 日誌の記入</p> <p>(1) 実習日誌（レポート）の記入状況</p>				
教科書					
副教材	畜産実習必携（信濃教育会出版部）				

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
実験・実習（実技）	◎	◎	◎	30%
レポート、ノート	○	◎	○	30%
小テスト	◎	○	○	25%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重点	実践的な活動を通じて、改善を図る能力を身につけているか。 動物の飼育管理に責任を持って取り組めているか。			

科目名	畜産		単位数	2単位
学科名	生命探求科	学年	3学年	予定時数 70
1 学習目標	家畜の飼育に必要な知識と技術を習得させ、家畜の特性や飼育に適した環境を理解させるとともに品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。			
2 指導の重点	<p>生徒の能力、意欲、関心が多様であることから</p> <p>① 家畜飼育の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。</p> <p>② 実際の飼育活動を通して興味を引き出し、家畜飼育に対する意欲を高めることを目指します。</p>			
3 学習内容	<p>【1学期】</p> <p>1 牛の繁殖生理 ①牛の一生 ②繁殖方法 ③繁殖管理 ④妊娠鑑定 ⑤分娩管理 ⑥哺乳 ⑦育成</p> <p>2 飼料の生産と利用 (1～2学期に実施)</p> <p>【2学期】</p> <p>3 牛の人工授精・受精卵移植 (1) 歴史 (2) メリットとデメリット (3) 生殖器各部の名称と役割 (4) ホルモン (5) 関係法規 (6) 方法</p> <p>【3学期】</p> <p>4 市場調査 (1～3学期に実施) (1) 子牛市場 (2) 食肉公社</p> <p>5 畜産経営 (1) 繁殖牛飼育農家 (2) 肥育牛飼育農家 (3) 酪農家 (4) 自己の理想農家経営像</p>			
教科書	畜産 (実教出版)			
副教材	畜産実習必携 (信濃教育会出版部)			

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
実験・実習	○	◎	○	10%
テスト	◎	○	○	60%
レポート	○	◎	○	15%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重点	畜産を発展させる経営感覚を身につけているか。			

科目名	飼育と環境	単位数	2単位
学科名	生命探究科	学年	3学年 予定時数 70
1 学習目標			
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、飼育動物の育成環境の調節・管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
2 指導の重点			
<p>(1) 飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 飼育と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 飼育と環境について農業生物の飼育や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
3 学習内容			
【1学期】	1 飼育と環境とプロジェクト学習 (1) 飼育と環境に関するプロジェクト学習の意義 (2) プロジェクト学習の進め方 2 飼育の目的と現状 (1) 現代社会における動物飼育の目的 (2) 飼育の現状と動向 3 飼育と環境 (1) 動物の種類と特性		22時間
【2学期】	(2) 発育と環境 (3) 衛生と環境 4 飼育技術と管理・評価 5 家畜の飼料と管理 (1) 家畜の消化器と消化・吸収の機能 (2) 飼料給与の実際 (3) 飼料作物の栽培と調整 (4) 家畜の飼養管理		36時間
【3学期】	6 家畜の繁殖技術 7 飼育の実践		12時間
教科書	飼育と環境 (東京電機大学出版部)		
副教材	畜産実験実習必携 (信濃教育出版)		

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
学習成績物	○	◎	○	25%
テスト	◎	○	○	50%
レポート	○	◎	○	10%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重視点	社会参加や地域づくりに感心を持ち、取り組んでいるか。			
科目名	生物活用		単位数	2単位

学科名	生命探求科	学年	3学年	予定時数	70
1 学習目標	生物の活用に必要な知識と技術を習得させ、生物の特性や飼育栽培に適した環境を理解させるとともに生産性の向上を図る能力と態度を育てる。				
2 指導の重点	生徒の能力、意欲、関心が多様であることから ① 動植物活用の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。 ② 実際の活用活動を通して興味を引き出し、意欲を高めることを目指します。				
3 学習内容					
【1学期】	1 日本鹿の捕獲 ・地域の現状 ・関係法規 ・罠猟 2 日本鹿の解体 ・解体工程の学習 自家消費用解体法 食肉製品製造用解体法 ・精肉工程と肉の保存について 3 家庭料理としての利用 ・鹿肉を利用した手軽な料理				22時間
【2学期】	4 食肉製品製造業資格の取得について ・関係法規について 施設の工夫 5 ハーブの栽培と利用 ・ハーブの種類と特徴 ・ハーブの栽培 6 動物を通した交流活動プログラムの作りかた (1) 交流活動の広がりとプログラム作成の基本 (2) 交流活動プログラム作成のポイント (3) ボランティア活動 (4) 鹿肉を用いた交流活動				36時間
【3学期】	7 鹿皮の利用 (1) 毛皮の加工 (2) 革の加工				12時間
教科書	生物活用 (実教出版)				
副教材	畜産実験実習必携 (信濃教育出版)				

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
実験・実習	○	◎	○	10%
テスト	◎	○	○	60%
レポート	○	◎	○	15%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重点	食生活と生活様式の変化について考えを深めることができているか。			

科目名	R6 飼育と環境		単位数	2 単位
学科名	生命探究科	学 年	3 学年	予定時数 70
1 学習目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、飼育動物の育成環境の調節・管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
2 指導の重点	<p>(1) 飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようする。</p> <p>(2) 飼育と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 飼育と環境について農業生物の飼育や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
3 学習内容				
【1学期】	<p>1 飼育技術と管理・評価</p> <p>(1) 飼育と管理・評価</p> <p>(2) 飼料と管理</p> <p>(3) 動物バイオテクノロジーと繁殖技術</p> <p>①産業動物概論 ②遺伝と育種 ③解剖と生理 ④繁殖</p> <p>⑤病気と衛生 ⑥栄養と飼料</p>			22時間
【2学期】	<p>(4) 施設・管理作業</p> <p>2 飼育と環境 (詳細は教科書が完成してから発表します)</p> <p>(1) 発育と環境</p> <p>(2) 衛生と環境</p>			36時間
【3学期】	<p>3 飼育の実践</p> <p>(1) 牛の受精卵回収と移植</p> <p>①過剰排卵処理から受精卵回収 ②受精卵の凍結保存 ③雌雄鑑別</p>			12時間
教科書	飼育と環境 (東京電機大学出版部)			
副教材	畜産実験実習必携 (信濃教育出版)			

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	10%
学習成績物	○	◎	○	25%
テスト	◎	○	○	50%
レポート	○	◎	○	10%
自己評価	○	○	◎	5%
評価の重点	社会参加や地域づくりに感心を持ち、取り組んでいるか。			